

## 2025年度選抜試験 小論文解答例

### ③学校推薦型選抜[公募制]

下記の3題より1題を選択し、自分の考え等を1,000字以内で書きなさい。

#### [テーマ1]

あなたは将来どのような保育者になりたいと考えていますか。そのためには短期大学に入学後、何に力を入れて勉強したいと思いますか。

#### 【解答例】

私は、子ども一人ひとりの心に寄り添い、その子の「できた！」という瞬間と一緒に喜べる保育者になりたいと考えています。子どもにとって保育園や幼稚園は、家庭以外で初めて長い時間を過ごす場所です。だからこそ、安心して自分を出せる環境づくりと、信頼関係を築くことが何よりも大切だと思います。私自身、幼いころに通っていた保育園で、工作の時間にうまくできず泣いてしまったことがありました。そのとき、担任の先生が「大丈夫、一緒にやってみよう」と優しく声をかけてくださり、最後まで見守ってくれたことを今でも覚えています。先生の温かい笑顔と支えのおかげで、完成したときの達成感と嬉しさを強く感じ、その経験が私の心に深く残りました。この出来事が、私が保育者を志すきっかけとなりました。

高校生活では、家庭科の授業やボランティア活動を通して、小さな子どもと関わる機会がありました。最初はどう接すればよいのか戸惑いましたが、子どもたちの純粋な笑顔や、「ありがとう」「また遊ぼうね」と言ってくれる言葉にたくさんの元気をもらいました。その中で、子どもは一人ひとり性格も成長のペースも違うことを実感し、相手の気持ちに寄り添うことの大切さを学びました。この経験から、子どもの個性を尊重しながら支える保育者になりたいという気持ちがさらに強まりました。

貞静学園短期大学では、子どもの発達や心理についての専門的な知識をしっかり身につけたいと考えています。子どもの言葉や行動の背景を理解することで、その子にとって最も安心できる関わり方ができるようになると思うからです。また、ピアノや製作、絵本の読み聞かせなど、保育現場で必要とされる技術を一つひとつ丁寧に学んでいきたいです。特に音楽表現の授業には力を入れ、子どもたちと一緒に歌う楽しさを感じながら、表現する喜びを伝えられる保育者を目指したいです。さらに、実習の機会を通して現場の先生方から多くのことを学び、子どもや保護者との関わり方、保育者同士の協力の大切さも体験的に身につけていきたいと考えています。

将来は、子どもたちが「明日も保育園に行きたい」と思えるような、温かく居心地のよい保育を実践したいです。そのために、常に学び続ける姿勢を持ち、保護者や地域の方々とも協力しながら、子どもの成長を見守り支えられる存在になりたいと思います。(970字)

〔テーマ 2〕

あなたは、どのような「自分の将来像」を描いていますか。そして、どのように社会に貢献できると思いますか。

【解答例】

私が描く将来像は、「子どもと共に成長し、地域に信頼される保育者」です。私は小さいころから子どもが好きで、近所の小さな子の面倒を見るのが楽しく、相手の笑顔に元気をもらっていました。遊んでいるうちに泣いていた子が笑顔になったり、「ありがとう」と言ってくれたりする瞬間に大きな喜びを感じ、その経験を通して人と関わることの温かさや、人の役に立てる嬉しさを知りました。そうした体験から、子どもの成長を支える仕事に就きたいと考えるようになりました。

高校生活では、地域のボランティア活動に参加し、実際に保育園で子どもと関わる機会がありました。初めての経験で緊張しましたが、子どもたちが名前を呼んでくれたり、「一緒に遊ぼう！」と手を引いてくれたりしたことがとても嬉しかったです。その中で、保育者の方々が一人ひとりの子どもに丁寧に声をかけ、小さな成長や頑張りを見逃さずに喜んでいる姿を見て、「自分もこんな風に子どもを支える人になりたい」と強く思いました。保育の現場では、子どもの笑顔の裏に努力や葛藤があり、それを温かく受け止め、励ますことが保育者の大切な役割なのだと感じました。

現代社会では、共働き家庭の増加や核家族化が進み、保育者の役割はますます重要になっています。保育者は、子どもを預かるだけでなく、家庭や地域と連携しながら、子どもの健やかな育ちを支える存在です。私は、貞静学園短期大学で保育の専門的な知識や実践力をしっかり身につけ、発達段階に応じた関わり方や、保護者との信頼関係の築き方を学びたいと考えています。また、ピアノや絵本の読み聞かせ、製作活動など、保育の現場で求められる技術を積極的に磨き、子どもが安心してのびのびと過ごせる環境を作れるようになりたいです。

さらに、将来は子育て支援や地域交流にも積極的に関わりたいと考えています。保育者が中心となって地域の方々と協力し、親子が安心して相談できる場所をつくることで、地域全体で子どもを育てる温かい社会づくりに貢献したいです。子どもだけでなく、保護者の方の不安や悩みにも寄り添える存在になりたいと思います。

これからも人との関わりを大切にし、子どもたちと共に自分自身も成長していけるよう努力を続けていきます。貞静学園短期大学での学びを通して、多くの人に信頼される保育者を目指し、一步ずつ夢に向かって進んでいきたいです。(979字)

[テーマ 3]

あなたの子ども時代と今の子どもたちはどこが違うと感じますか。そして、保育や幼児教育は、将来どのように変わっていくと思うか述べてください。

【解答例】

私が描く将来像は、「子どもと共に成長し、地域に信頼される保育者」です。私は小さいころから子どもが好きで、近所の小さな子の面倒を見るのが楽しく、相手の笑顔に元気をもらっていました。泣いていた子が笑顔を取り戻す瞬間に大きな喜びを感じ、その経験を通して人と関わる仕事のやりがいを知りました。高校生活では地域のボランティア活動に参加し、保育園で子どもたちと遊ぶ機会がありました。そのとき、保育者の方が一人ひとりに丁寧に声をかけ、子どもの小さな成長を見逃さずに喜ぶ姿を見て、「自分もこんな風に人の成長を支えたい」と強く思いました。

現代社会では、共働き家庭の増加や核家族化が進み、保育者の役割はますます重要になっています。保育者は、子どもを預かるだけでなく、家庭や地域と連携しながら、子どもの健やかな成長を支える存在です。私は、貞静学園短期大学で保育の専門知識や実践力をしっかり身につけ、発達段階に応じた関わり方や、保護者との信頼関係の築き方を学びたいと考えています。また、ピアノや製作などの技術も磨き、子どもたちがのびのびと表現できる保育を実践できるようになりたいです。

私の子ども時代と今の子どもたちを比べると、一番の違いは「遊び方」と「人との関わり方」だと感じます。私が幼いころは、外で鬼ごっこやかくれんぼをして、友達と体を動かしながら遊ぶことが多くありました。しかし最近は、ゲームや動画などデジタル機器で遊ぶ子が増え、外での遊びや直接的な関わりが減っているように思います。便利な時代になった一方で、人と関わる力や自然とのふれ合いの機会が少なくなっていることに少し寂しさも感じます。こうした変化の中で、これからの保育や幼児教育には、より一層「人と関わる力」を育てることが求められると思います。AI やデジタルが進化しても、心の温かさや思いやりは人間にしか育てられません。子ども同士の関わりを大切にし、協力したり助け合ったりする経験を通して社会性を育てる保育を実現したいです。将来は、ICT を上手に取り入れながらも、人とのつながりを中心にした教育を大切にし、子どもたちが「明日も保育園に行きたい」と思える環境をつくりたいです。

私は、時代の変化に柔軟に対応しながら、子どもたちの笑顔と成長を支える保育者を目指します。(948字)

#### ④一般選抜

下記の3題より1題を選択し、自分の考え等を1,000字以内で書きなさい。

[テーマ1]

あなたは、保育を学び、どのように現場で活躍していきたいと思うか、述べてください。

#### 【解答例】

私は、子ども一人ひとりの個性を大切にし、その子らしさを引き出せる保育者として現場で活躍したいと考えています。子どもはみんな違う性格や興味を持っており、その違いを理解して寄り添うことが保育者の大切な役割だと思います。私は小学生のころから妹の世話をよくしており、最初は泣いてばかりでなかなか思うようにいかない妹にどう接していいかわからず戸惑いました。しかし、妹の気持ちを受け止め、好きな遊びやお話と一緒に向き合ううちに、少しずつ笑顔が増えていきました。そのとき、人は自分の思いを分かってもらえることで安心し、前向きな気持ちになれるのだと感じました。この経験を通して、人に寄り添うことの大切さを学び、子どもの気持ちに寄り添う保育者という仕事に強く興味を持つようになりました。

高校生活では、家庭科の授業や地域のボランティア活動を通して、小さな子どもたちと関わる機会がありました。実際に子どもと接してみると、一人ひとりの反応や表情が違い、同じ言葉をかけても受け止め方が異なることを実感しました。その中で、子どもの個性を理解するためには、よく観察し、気持ちを想像しながら接することが大切だと感じました。また、子どもが自分の思いを表現できたときに一緒に喜び、成長を共に感じられることに大きなやりがいを覚えました。こうした経験が、保育者を目指す気持ちをより強くしてくれました。

貞静学園短期大学では、子どもの発達や心理について専門的に学びたいと考えています。子どもの行動や言葉には必ず理由があり、その背景を理解することが、安心して過ごせる環境づくりにつながると思うからです。また、歌やピアノ、絵本の読み聞かせなど、子どもの心を豊かに育てる表現活動にも力を入れたいです。特に音楽や製作を通して、子どもたちが自分の思いを自由に表現し、自信を持てるような支援ができる保育者を目指したいです。さらに、実習では現場の先生方から多くを学び、子どもや保護者との関わり方を体験的に身につけていきたいと思っています。

将来は、子どもたちが「明日も保育園に行きたい」と思えるような、温かく安心できる雰囲気を作りたいです。そして、保護者や地域の方とも連携しながら、子どもの成長と一緒に喜び合える保育者になりたいと思っています。

(938字)

〔テーマ 2〕

子どもにとって保育現場で集団生活をするに、どのような意味があると思いますか？あなたの実体験のエピソードを交えながら、考えを述べてください。

【解答例】

私は、保育現場での集団生活には「社会性を育てる」という大きな意味があると考えています。家庭では家族との関わりが中心ですが、保育園では年齢や性格の違う多くの子どもと関わることで、思いやりや協調性が自然と育まれます。子どもたちは遊びや日常の中で、相手に譲ったり、助け合ったりしながら「人と生きる力」を身につけていくのだと思います。

私は中学生のとき、地域の保育園でボランティアを経験しました。子どもたちはおもちゃの取り合いをしたり、泣いてしまったりと、毎日のように小さなトラブルが起きていました。しかし先生方はすぐに止めるのではなく、「どうしたら一緒に使えるかな？」「相手はどんな気持ちかな？」と優しく声をかけ、子どもたちに考えさせる姿勢を大切にしていました。その結果、子どもたちは自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手に譲ったりすることを少しずつ学んでいました。その光景を見て、保育者はただ見守るだけでなく、子ども自身の気づきを引き出す存在であることを知りました。そして、集団の中で育つ「人との関わり方」こそが、将来社会で生きるうえでの大切な基礎になると感じました。

また、集団生活は自立の力を育てる場でもあります。自分のことは自分でやる、順番を待つ、約束を守るといった基本的な生活習慣も、周りの友達の姿を見ながら学んでいくことができます。こうした力は家庭だけではなかなか身につかないものであり、保育者の支援が欠かせません。子どもが自分でできたことを喜びに変え、自信につなげていく瞬間を一緒に見守れることが、保育者という仕事の大きな魅力だと思います。

貞静学園短期大学では、子どもの発達や心理、保育内容の理論をしっかり学び、子どもの行動の背景を理解できる力を身につけたいです。また、実習では実際の現場に立ち、子どもとの関わり方や集団づくりの工夫を学びたいと考えています。さらに、ピアノや絵本の読み聞かせ、制作活動など、子どもたちの表現を広げるスキルも身につけていきたいです。

将来は、子どもたちが安心して自分を表現できる温かい集団をつくり、一人ひとりの思いを大切にしながら、友達と過ごす楽しさや相手を思いやる気持ちを育てられるような保育を実践したいです。子どもの成長に寄り添い、保護者や地域から信頼される保育者を目指して、これからも学び続けていきたいと思っています。(975字)

〔テーマ 3〕

幼児にとって、子どものための歌は必要だと思いますか？また、なぜそのように考えたのか理由を述べてください。

【解答例】

私は、幼児にとって「子どものための歌」はとても大切なものだと思います。なぜなら、歌には言葉やリズムの楽しさを伝えるだけでなく、心を落ち着かせたり、思いを共有したりする力があるからです。歌は、言葉を覚える前の小さな子どもでも楽しむことができる表現手段であり、心と心をつなぐ大切なコミュニケーションの一つだと思います。

私は小さいころ、寝る前に母が子守歌を歌ってくれるのが大好きでした。うまくいかない日や落ち込んだ日でも、母の優しい声で歌を聴くと心が穏やかになり、安心して眠ることができました。その時間は私にとって特別で、母の歌声がまるで包み込んでくれるように感じました。その経験から、歌には人の心を癒し、安心感を与える不思議な力があると感じました。今でもその記憶は、私の中で温かい思い出として残っています。

中学生のころ、地域の行事で保育園を訪れ、子どもたちと一緒に歌を歌う機会がありました。最初は恥ずかしそうにしていた子ども、手をたたいたり笑い合ったりするうちにどんどん表情が明るくなり、会場全体があたたかい雰囲気になりました。そのとき私は、「歌には人をつなぐ力がある」と改めて感じました。歌を通して子どもが笑顔になり、心を通わせる瞬間に立ち会えたことが、保育者を目指す大きなきっかけになりました。

保育現場でも、歌は子ども同士や保育者とのつながりを生む大切な時間になります。一緒に歌うことで仲間意識が生まれ、みんなで表現する喜びを感じることができます。また、歌の歌詞には季節や自然、動物、行事など身近なテーマが多く含まれており、子どもたちが言葉を覚えたり、想像力を広げたりするきっかけにもなります。歌うことは、子どもにとって「学び」でありながら「遊び」でもあるのです。

私は貞静学園短期大学で音楽表現の授業に力を入れ、子どもたちが笑顔で歌える環境づくりを学びたいです。ピアノ伴奏やリズム遊び、わらべうたなど、子どもの年齢や発達に合わせた音楽活動を工夫できるようになりたいと考えています。そして将来は、歌を通して子どもの心に寄り添い、安心と喜びを届けられる保育者を目指します。歌は、子どもたちにとって「心の栄養」のような存在です。その大切さを忘れずに、日々の保育の中で一人ひとりの気持ちを受け止めながら、生き生きとした時間を作っていきたいです。(968字)

## ⑤特別選抜[社会人入試]

下記の3題より1題を選択し、自分の考え等を1,000字以内で書きなさい。

### [テーマ1]

社会人経験を本学での学びにどのように生かしていくか、あなたの理想の保育者像をふまえて述べてください。

### 【解答例】

私は将来、「子ども一人ひとりに寄り添い、保護者や地域の方々からも信頼される保育者」になりたいと強く願っています。そのためには、子どもとの関わり方だけでなく、周囲の人々とのコミュニケーションやチームワークを大切にす姿勢が欠かせないと考えています。私は高校生活の中でアルバイトを経験し、そこで身につけた社会人としての基本的な礼儀や協調性を、今後の学びや保育の現場でしっかりと生かしていきたいと思っています。

私が経験したアルバイトは飲食店での仕事でした。最初は慣れない環境で、お客様への対応や同僚との連携に戸惑うことも多くありました。しかし、日々の仕事を通じて、責任感の重要さや周囲と協力し合うことの大切さを学びました。例えば、お客様に笑顔で接することは簡単なようで難しく、常に相手の立場を考えながら行動する必要があることに気づきました。また、忙しい時には仲間と声をかけ合い、助け合うことで仕事がスムーズに進むことを実感しました。この経験は、保育の現場でも役立つと感じています。子どもや保護者、同僚と信頼関係を築くためには、相手の気持ちを理解し、思いやりを持って接することが何よりも大切であると考えています。

貞静学園短期大学では、保育の専門的な知識や技術を身につけることはもちろんですが、社会人としての経験を活かし、主体的に行動できる学生でありたいと考えています。授業や実習の場では、自分から積極的に発言し、仲間と協力して課題に取り組むことを大切にしたいです。また、実習先では社会人として学んだ「報告・連絡・相談」の基本を意識し、責任感を持って行動し、信頼される保育者を目指したいと思います。

将来は、子どもたちの笑顔を支えるだけでなく、保護者や職員の方々とも信頼関係を築き、周囲に安心感を与えられる存在になりたいです。アルバイトで培った人との関わりの力を活かしながら、子どもたちに「自分を大切にす心」を育てられる保育者として成長していきたいと心から思っています。これからの学びの時間を大切に、夢に向かって努力を続けていきます。そして、どんな困難にも負けない強い心と優しさを持った保育者になりたいと考えています。(906字)

【テーマ 2】

チームワークの良い集団とは、どのような集団だと考えますか。また、チームワークの良い集団であるために、周りの人たちに対して、どのような配慮や行動が必要か、自身の経験をふまえてあなたの考えを述べてください。

【解答例】

私は、チームワークの良い集団とは「互いの意見を尊重し合い、助け合いながら同じ目標に向かって努力できる集団」だと考えています。誰か一人だけが頑張るのではなく、メンバー全員が自分の役割を理解し、相手の立場や気持ちを思いやることによって、初めてチームとしての力が十分に発揮されると思います。保育の現場においても、このチームワークの大切さはとても強く感じられます。

私が高校で文化祭の実行委員を務めた経験は、まさにチームワークの重要性を実感する貴重な機会でした。文化祭の準備は、最初のうちは意見がまとまらず、話し合いがうまく進まないことも多く、作業自体もなかなか計画通りに進みませんでした。しかし、そんな時こそ一人ひとりの意見を大切にし、全員が発言しやすい雰囲気を作ることを心がけました。具体的には、話し合いの場に出た意見を否定せず、どんな小さな意見も受け止める姿勢を示すように努めました。

その結果、徐々に意見交換が活発になり、メンバーの間に信頼関係が深まっていきました。みんなが「自分の考えを認めてもらっている」と感じられるようになり、自然と協力し合いながら作業を進めることができるようになりました。この経験から、チームワークを良くするためには「相手を認める姿勢」と「感謝の気持ちを伝えること」が非常に大切だと学びました。感謝の言葉は、仲間のやる気を引き出し、チームの結束力を高める力があることを実感しました。

保育の現場もまた、一人の力だけでは成り立ちません。保育者同士の連携はもちろん、保護者の方々や地域の方々とも協力しながら、子どもたちが安心して過ごせる環境を作り上げていくことが求められます。私は、そのためにも常に周囲の人に対する感謝と敬意を忘れず、たとえ意見が異なっても相手の考えを尊重しながら、話し合いを通じてより良い方法を見つけていく努力を続けていきたいと考えています。

将来は、保育園や幼稚園などの現場で、チームの一員として周囲から信頼される保育者を目指しています。仲間と支え合いながら子どもたちの成長を見守り、保育園全体が明るく前向きな雰囲気になるような温かい環境づくりに貢献したいです。そのためにも、貞静学園短期大学での学びを通じて、協調性やコミュニケーション能力、そして必要なときにはリーダーシップを発揮できる力をさらに伸ばしていきたいと思っています。(979 字)